

令和5年度（2023年度）

# 施政方針

令和5年2月27日

妙高市

# 令和5年度 施政方針

## I はじめに

新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから3年が経過しましたが、未だ収束には至っていないものの、水際対策等の段階的な緩和や経済対策等により、観光需要の拡大に伴う国内の宿泊数は、新型コロナウイルスの影響が出始める前の水準にまで回復するなど、人の流れは戻りつつあります。

国では、本年5月に感染法上の分類を現在の2類相当から5類に引き下げる方針であり、本格的な経済社会活動の再開に向けた転換期を迎えています。

一方、想定しえなかったコロナ禍の長期化に加え、国際情勢の変化に伴う原油価格や物価の高騰に鑑み、この難局を乗り越えていけるよう、市民生活と地域経済の再生に向けた支援を適時適切に進めていく必要があります。

さて、我が国では、令和4年度の出生数が80万人を割り込む見込みで、国立社会保障・人口問題研究所の将来予測と比較し、10年近く早いペースで少子化が進んでいます。また、本県における令和4年の転出超過数は全国で4番目に多く、コロナ禍により地方暮らしへの関心が高まっている中、若者を中心とした県外流出に歯止めがかかっていない状況です。当市におきましても、令和4年4月に妙高市全域が過疎地域に指定されるなど、人口減少に伴う過疎化が進行し、地域コミュニティを取り巻く社会環境が急速に変化しつつあります。

このような状況におきましても、市民一人ひとりが幸せを実感できる妙高市へと発展させるため、SDGsを推進しながら地域の個性を取り入れたDX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）を加速するとともに、未来を担う子どもへの投資を推進し、社会環境の変化に対応していくことが求められています。そして、若い世代が「ここに集いたい、仕事をしてみたい、このまちに住み続けたい、このまちで子育てをしていきたい」と思っただけの魅力あふれるまちを市民の皆様とともに創っていく必要があります。

妙高市第2章の主役は、市民の皆様です。地域の課題を解決し、魅力と賑わいのあるまちづくりを進めていくためには、行政だけではなく、そこに暮らす一人ひとりの力を活かしたまちづくりを進めていくことが重要であります。

そこで、市民の皆様と想いを一つにした第4次総合計画の策定に着手するとともに、市民、地域、事業所の皆様が起点となる「人起点」のまちづくりにより持続可能な未来を切り拓いてまいります。

## II 重点方針

### 方針1 市民が主役となるまちづくり

持続可能なまちを市民の皆様とともに創り上げるため、あらゆる施策に様々な主体が関わる「市民が主役」のまちづくりを進めます。また、多様性を認め合い、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、誰もが夢や生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできる共生社会の実現を目指します。

#### <目指すゴール>



#### ① 市民参画によるまちづくりの推進

□時代の潮流や地域課題、市民ニーズを的確にとらえた「第4次総合計画」の策定に着手します。

□「人と地球が笑顔になるSDGs推進条例」に基づき、市民、地域、事業所など、全ての主体が主役となり、SDGsの推進と実践の輪の拡大を図ります。

□市民や地域づくり団体等と語り合う対話の場づくりを拡充し、施策への理解の促進と市民の声を市政に活かすまちづくりを推進します。

□過疎化の進展により地域のコミュニティ機能が低下していることから、住民同士の対話や活動を支援し、住民が主体となった地域運営の仕組みづくりを推進します。

#### ② 思いやりと支え合いによる共生社会づくりの推進

□高齢者の生活を支える施策を取りまとめるため、地域包括ケアシステムの深化・推進を柱にした「第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定します。

□高齢者の外出支援による介護予防の強化を図るため、生活支援コーディネーターによる伴走型支援のほか、新たにeスポーツ等を取り入れた魅力ある居場所づくりなどを推進します。

□障がいのある人が住み慣れた地域で自立し日常生活や社会生活を営むことができる共生社会の実現を目指し「第5期障がい者福祉計画」を策定します。

## 方針2 人を育て人が起点になるまちづくり

子どもの成長を社会全体で支える環境を整備するなど、未来の主役である子どもや若者への投資を加速します。また、人生100年時代を心豊かに過ごすことができるよう、多様な学びの機会の創出を図るほか、未来の妙高を支える人材を育成するため、地域資源を取り入れた「ほんもの教育」を推進します。

### <目指すゴール>



### ① 子どもの成長を社会全体で支える環境整備

- 従来からの相談支援等に加え、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもの多様化する悩みに対する一体的な相談支援を行う「こども家庭センター」の設置に向けた準備を進めます。
- 地域全体で子育てを支え、次代を担う子どもたちの健やかな育成につなげるため、3歳以上の園児と小・中学生の給食費の完全無償化を実施します。
- スクールソーシャルワーカーの配置拡大や新井中学校の校内教育支援センターに指導員を新たに配置するなど、不登校等の児童生徒に対する支援を強化します。

### ② 生涯を通じた多様な学びの創出

- 市民の豊かな感性を育み、いつでも必要な知識を得ることができる「知の拠点」として、生涯にわたる主体的・自発的な学びを支える新図書館等複合施設の建設に着手します。
- 身近な地域の自然、環境、歴史、文化、人権教育・ジェンダー平等など、多様な学びの機会を提供する「まなびの杜」の充実を図るとともに、学びの成果を社会に活かす学びの循環と人材活用を進めます。

### ③ 地域資源を取り入れた「ほんもの教育」の推進

- 妙高高原北小学校・南小学校の統合により、多くの仲間との交流や地域資源を活かした学びの幅を広げる学習環境を整備します。
- 当市の様々な地域資源を活用した「ほんもの教育」に重点を置いた「妙高型イエナプラン教育」などに取り組み、子どもたちの主体的な学びと他者と協力しながらたくましく生きる力を育成します。

□子どもたちの英語による実践的なコミュニケーション能力の向上を図るため、ALTや外国語活動コーディネーター等を配置し、園から学校まで一貫した連続性のある英語教育を推進します。

## **方針3 暮らしを支えるまちづくり**

地域住民のいのちと健康を支える医療提供体制の安定化に向けた活動を強化するほか、全ての世代の運動習慣の定着促進を図るとともに、高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的な実施などによる健康寿命の延伸を図ります。また、激甚化する自然災害への備えや対策など、防災施策の充実を図るほか、DXを加速させ、市民生活の質の向上により、安全・安心な暮らしの実現を目指します。

### <目指すゴール>



### ① 健康な妙高暮らしの推進

□市民や妙高を訪れるかたの受診機会の維持に向け、県立妙高病院を存続させるために、地域と連携した要望活動等を促進するとともに、けいなん総合病院の運営に対する支援を行うなど持続可能な医療体制の確保を図ります。

□生活習慣病等の疾病予防・重症化予防とフレイル対策等の介護予防を一体的に実施することで、高齢者の自立した生活を実現し、健康寿命の延伸を図ります。

□市民の運動習慣の定着を図るため、妙高型健康保養地プログラムの開催を支援するなど、ウォーキングの普及と促進を図ります。

□人生100年時代を見据えた持続可能な健康づくりを推進するため、すこやかライフプラン21、食育推進計画、歯科保健計画等を統合した次期計画を策定します。

### ② 災害と雪に強い妙高暮らしの推進

□道路ネットワークの安全性・信頼性を確保するため、長森橋の改築調査をはじめ、橋りょうの長寿命化に取り組みます。

□堰板の自動切り替えが可能となる「流雪溝クラウド監視制御システム」の試行的整備を行い、地域住民の雪処理に対する負担軽減と安全確保を図ります。

□長寿命で質が高く、災害に強い住宅を推進するため、既存住宅の環境改善や安全性の向上を目的とした改修工事のほか、屋根雪処理の負担軽減と事故防止に向けた克雪化改修工事等に対する支援を拡充します。

### ③ DX（デジタルトランスフォーメーション）の加速

□電子申請機能、電子納付機能及び電子署名機能を兼ね備えたオンライン申請システムの導入により、窓口業務の効率化と「行かない市役所」の推進を図ります。

□市役所における行政文書の電子化や電子決裁を導入し、ペーパーレス化とともに業務の効率化を図るなど、自治体DXを推進します。

□ICT等の最新技術を活用し、地域課題の解決や地域の活性化を図るため、ドローン操縦資格取得者への支援を行いドローンの実用化を促進します。

□登山客の利便性と安全性の向上を図るため、高谷池ヒュッテに基地局を整備し、登山道の携帯電話不感地区の解消を目指します。

□スマート農業を推進し、農業者の作業負担の軽減や労働時間の短縮、適切な栽培管理による品質と収穫量の向上を図ります。

## 方針4 個性あふれるまちづくり

「人と地球が笑顔になるSDGs推進条例」及び「ゼロカーボン実行計画」等に基づき、17全てのゴールに向けた全市民のさらなる実践の輪の拡大を図るとともに脱炭素化に向けた取組を加速させます。また、官民共創による新たな価値の創造に取り組み、地域課題の解決を図ります。

### <目指すゴール>



### ① SDGs普及啓発活動と実践の輪の拡大

□SDGs普及啓発セミナーやイベント等を切れ目なく開催し、市域全体への浸透と理解の深化を図り、実践の輪の拡大につなげます。

□住みよい地域社会の維持及び形成に向け、地域における自主的・主体的に行うSDGsに資する活動を支援します。

## ② GX（グリーントランスフォーメーション）※の推進

□これまでの住宅取得等支援制度に、新たに省エネ性能の高い新築・建売住宅の取得等に対する支援を拡充し、低炭素化を推進するとともに健康的かつ経済的な暮らしを促進します。

□ゼロカーボンに向けた市内事業所の取組を促進するため、登録制度を創設し、高効率設備への更新、再エネ設備の導入などに対する支援を行います。

□既存住宅の環境負荷低減や居住環境等の改善を促進するため、対象となるゼロカーボン推進工事を拡充します。

□市道沿線における森林について、通行の安全性や眺望景観の確保・災害発生時における被害の未然防止などを促進するため、間伐や除伐などの整備を実施します。

※GX（グリーントランスフォーメーション）…再生可能エネルギーの活用や省エネ性能の向上、森林管理による二酸化炭素吸収量の適正化など、脱炭素に向けた取組と経済成長の両立を実現するための社会変革のこと

## ③ 民間活力によるイノベーション※と関係人口の創出

□起業家等が当市のフィールドを活かして取り組むプロジェクトを支援する補助制度を創設し、官民共創によるイノベーションを推進します。

□自然環境を活かしたSDGs視点でのプログラム開発等を通じ、大学生等の関係人口化を促進します。

※イノベーション…時代の潮流を捉えて新たな価値を創造しながら、従前とは違う初めての施策や事業を実施し、地域を持続的に発展していくこと

## 方針5 活気に満ちた躍進するまちづくり

地域産業を再興するため、国立公園に広がる豊かな自然や食の魅力など、世界に誇れる地域資源を最大限に活用し、スノーリゾートの推進に向けた環境を整備するとともに、通年観光の誘客拡大に向け、プロモーションの強化を図ります。また、街なかの賑わいを取り戻すため、交流促進による人の流れの創出に取り組みます。

### <目指すゴール>



#### ① 地域資源の最大活用による地域産業の再興

- インバウンドを含めた観光誘客の拡大と地域産業の活性化を図るため、受入環境の整備とプロモーションを促進し、妙高エリア全体のスノーリゾートとしての付加価値を高めます。
- 加工用ブドウの収量確保と品質向上に対する生産者への支援を行うほか、栽培面積の拡大に伴う人材の確保に取り組むなど、六次産業化の促進を図ります。
- 季節ごとの仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出する派遣事業を行う事業協同組合に対して支援を行うことで、担い手不足の解消と安定的な雇用環境の確保を図ります。
- インバウンドなど観光客の利便性の向上と高齢者等の安全の確保を図るため、妙高高原駅のエレベーター新設に向けた支援を行います。
- 身近な歴史遺産に対する保護意識を醸成し、地域資源としての活用を促進するため、宝蔵院御膳の活用を促進するほか、保存活用計画の策定や普及啓発に資する出版物の制作などに取り組みます。

#### ② 交流促進による街なかの賑わい創出

- 「まちなか交流プラザ」の開設を機に、社会福祉の増進と市民の社会福祉活動への参加を促進し、まちなかの賑わい創出を図ります。
- 市民の日常生活を支える公共交通の利便性を高めるため、AIを活用した予約型乗り合いタクシーの運行範囲拡大により、街なかへの人の流れの創出を図ります。
- SDGs 視点を取り入れた六十朝市の開催や公共交通機関と連携した誘客の促進等を通じ、多様な賑わいの創出を図ります。



### Ⅲ むすび

岸田総理は令和5年度施政方針演説において「近代日本にとって大きな時代の転換点は2回。明治維新と、その77年後の大戦の終戦、そして奇しくもそれから77年経った今、我々は再び歴史の分岐点に立っている。」と述べました。まさに、私たちは、時代の大きなうねりの中に生きています。

未来の地球のために、将来の妙高のために、若者たち、子どもたち、これから生を受ける全ての“いのち”に対し、何が出来るのか、何をしなければならないのか、本気で考えなければなりません。

私は、市長就任前から「人口減少に果敢に挑戦」と一貫して申し上げてきました。そのために先ずすべきは人口減少・少子高齢化が地域社会、地域経済にもたらす影響を正しく知ることが重要だと考えております。このまま進むと妙高の将来はどうなるのか。市民の皆様が思い描く理想の将来像との乖離をしっかりと議論し、これから私たちは何をすべきなのか、第4次総合計画を策定する過程の中で、皆様と一緒に考えてまいります。そして、持続可能なまちを皆様とともに共創してまいります。

市長に就任し3カ月間、多くの市民の皆様と直接話を重ねてまいりました。引き続き、市民の皆様や事業者の皆様、議員の皆様との対話を進め、未来への変革に邁進してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年2月27日

妙高市長 城戸陽二